

氏名	草 浦 勉
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 197 号
学位授与の日付	昭和41年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Echinostoma hortense ASADAの雌性生殖器と卵黄細胞、 卵黄顆粒に関する形態学的研究
論文審査委員	教授 稲 臣 成 一 教授 村 上 栄 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Echinostoma hortense の雌性生殖器の形態および微細構造を明らかにし卵殻形成機構を追求した。本虫は一般吸虫類の基本体系を持っているが、体後半両側の良く発育した卵黄巣と輸卵管にある球状の受精室とが特徴である。受精室は輸卵管の肥厚膨大した球状部で中に多くの精子と卵細胞とを認めた。子宮基部に認められる形成初期の卵殻の長軸の一極に1～2ケの卵黄細胞が出入運動を行いこの部の硬化が遅れ最後に卵蓋が造られた。卵黄巣では卵黄細胞の発生より成熟遊離して游走細胞となるまでの発育経過が観察出来た。初期の未成熟卵黄細胞内にすでに電子密度の高い球状顆粒が存在し成熟卵黄細胞においては増加した球状顆粒集合体と比較的電子密度の低い顆粒とが認められた。卵形成腔を取巻くメーリス腺細胞には内周細胞と外周細胞の二種があり、内周細胞内に二種類の分泌顆粒があり外周細胞内にはこれと異なる一種の分泌顆粒のみあることを認めた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、*Echinostoma hortense* の雌性生殖器の形態及び卵殻形成機構を光学及び電顕レベルより追究し、ことに授精前後における卵形成機序を明らかにしたほか、メーリス腺は2種類の細胞群より構成されている事を見とめており呼吸類の形態学に大きな貢献をしている。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。